

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 杏番館 )

事業所番号	0671700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1924番地		
自己評価作成日	令和 3年 8月 14日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした愛されるグループホームを目指し「大切な人に笑顔と安らぎを」～その人らしい生き活きとした暮らしを支えます～の法人理念のもと、一人ひとりの能力・特性を見極めて残存能力を生かした生活支援、ご希望があればお看取りまで支え、最期まで自分らしく過ごせる第二の我が家となるよう心がけています。また、入居者様、家族様とのコミュニケーションを多くとるよう心がけ、思いに寄り添い、信頼関係を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いまだ収束しないコロナ禍のなか、利用者は家族等や職員に支えられ、制限もあるが感染対策をしっかりとってホームの中でそれぞれのペースで穏やかに暮らしています。その人らしい暮らしを支えるため職員は理念を大事に利用者の思いに共感し、傾聴し、敬愛と感謝の心で信頼関係が築けるよう日々コミュニケーションを深めています。地域との交流や自由な外出が出来ない今、少しでも利用者の楽しみが叶う散歩・ドライブやおやつ作り、希望のメニュー食などを取り入れることで満足した笑顔が見られています。職員は認知症の軽減に繋がるよう家族等の協力を得てプランを作り実践している事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 9月 28日	評価結果決定日	令和 3年 10月 14日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として施設の役割を反映した独自の理念がある。各ユニットの玄関と事務所に掲示のほか、職員が身に付けているネームプレートに入れて持ち歩き、理念に対する意識を高めるようにしている。	事業所独自の理念を定め、玄関や事務所に掲示している。職員はネームプレートに入れて自らの行動を振り返り、敬愛・共感・感謝・傾聴・信頼を大事にしながら利用者日々関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校から案内を頂き運動会などを見学したり、地区の行事に参加していた。また施設行事の夏祭りは地区の方を招待したり交流を図っていたが、現在はコロナ禍のため地域との交流が図れていない。	コロナ禍以前は隣の小学校や地域との交流があり、利用者もスポーツ大会や文化祭などに参加し楽しいひと時を過ごしていたが、現在はボランティアの訪問も中止となり利用者は残念に思っている。職員は感染対策に努めながら交流の再開を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めていただけようようにしていたが、現在は実習生のみ受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、密回避の観点から運営推進会議の委員の方全員へ書面にて報告行っている。質問等あった際はその都度対応し、次回の報告の際書面にて質疑応答を入れるようにしている。	2ヶ月に一回行っていた運営推進会議は集まることができず現在は書面でのやり取りで、スライドに代わり写真で様子を伝え、日頃の様子や笑顔が写っており元気にしている良かったとの声が家族等や地域の方から聞かれている。今後は直接対面での話から色々な情報が聞けることを願っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に定期的に情報交換など行っていたが、現在は書面にて報告する際に必ず担当の方と顔を合わせるようにして関係を築くようにしている。	コロナ禍なので事業所から市の方へ出向いて行き、更新時や生活保護のかたの手続きなどで直接顔を合わせて話し合いをしている。その際に運営推進会議の資料やユニットごとのたよりを持参して理解と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外出できるようにしている。また、身体拘束についての研修会を開催したり、委員会を設置し身体拘束についての正しい理解に努めている。束縛のないケアを実践している。	拘束のない自由な暮らしを支えることを大切にし、特にスピーチロック(言葉による拘束)に気を付けている。認知症に対しての研修も継続して行われ、ユニット間でも共有し利用者寄り添ったケアの実践に取り組んでいる。毎年職員から接遇標語を募集し、接遇委員会で選ばれたもの「ほっとする あなたの一言 思いやり」などを掲示し実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての正しい理解を学ぶため、研修会の開催や委員会活動を通じて定期的に話し合いの機会を持ち虐待がないよう啓蒙に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については理解不足な所があるため、継続的に学習する機会を持ち、理解していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り説明を行うようにし、随時質問等ないか確認しながら契約の締結を行っている。解約の際も同様に十分な話をし、同意の上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や各ユニットの玄関に意見箱を設置している。その他にも随時意見や要望を伺っている。年1回利用者様や家族様にアンケートを実施し、頂いた意見を職員全員が共有し、問題点などは解決なるよう検討を行っている。	コロナ禍のなか利用者と家族とのオンライン・窓口面会が事前予約となっており、時間等の制限もあるが土・日曜日も対応して出来るだけ多くの家族等が会えるよう工夫している。また年一回家族アンケートを実施し意見や要望をもらい運営に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回全体会議とユニット会を行い、職員の意見が反映する体制を作り話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。「山形いきいき子育て応援企業」の認定と子育てサポート企画として「プラチナくるみんマーク」を取得している。また研修会の参加費や資格取得費用を事業所で一部負担している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修や、部門ごとに年間計画をたて、研修会を設けている。また外部の研修会にも参加しやすいよう勤務の配慮もしている。4月には前年度中途採用者含め新人研修を行い、理解を深めてもらっている。	職員は研修計画や資料づくりを自ら行う部門研修や法人全体研修等を実施し、利用者により良く関わる為にコミュニケーション能力の向上に力を入れている。育児休暇や介護休暇、研修や資格取得についての費用補助など職員に配慮があり、働きやすい職場環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入し、定期的な研修会に参加し、他事業所の方と交流する機会を設けている。また、管理者は他事業所の運営推進会議委員になっており、会議への参加や交流を行いサービスの質の向上に努めている。	村山地区グループホーム連絡協議会に加入しており、コロナ禍のためオンラインによる情報交換を行っている。管理者は市内の事業所の運営推進会議メンバーとなっており、意見交換に繋がり良い関係を築いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と話し、施設内でどのように過ごしたいのか、また生活歴等の聞き取りを行うことにより施設内での暮らしに楽しみを持っていただけるようスタッフ間で意見を出し合い安心して過ごして頂けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様に面談し、現在の暮らしの中での不安や施設内での要望を聞きサービスの内容を決定している。また、安心して入居していただけるよう入居後もこまめに連絡を取り日々の状態や様子をお伝えしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が施設内での生活に望まれることを念頭に置き支援内容をスタッフ間で話し合い今は何が大切であるかを見極めサービス向上に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の一部として日常の家事等をご利用様に無理のない程度に行って頂き、できないところはスタッフが介入し1つの家族として生活してもらえよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来居された際は、日常の様子や変化等をこまめに報告する事でご家族様の不安を少しでも取り除けるよう努め入居者様との関係が途切れないよう支援している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に生活歴を調査し、入居者様が好きだった事、仕事等を考慮した上でスタッフ間で話し合い、生きがいをを持って過ごしていただけるよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方等で座って頂けるよう座席等の配慮を行うようにしている。集団でのコミュニケーションが苦手な方に対しては、個々の時間を設けるなどして対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も気軽に相談していただけるように努めている。必要に応じて今後についての提案などを行い相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと会話する機会を持ち、入居者様の思いを把握し寄り添った支援が出来るよう努めている。日々の行動や表情から思いを汲み取り、ご本人様の希望や意向に添うことが出来るよう努めている。	利用者の思いを知るために生活歴や習慣を把握して、日頃から共感・傾聴することを大事に、ホームでの暮らしが楽しいものになるように取り組んでいる。職員は担当者だけでなくユニット全員で支え、希望が叶った時の利用者の笑顔を共に喜んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様からこれまでの暮らしを聞き取りし、趣味や生活環境の把握をしている。また、ご本人様との会話の中から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察し、現状の把握に努めている。日々の会話の中からご本人様の思いを汲み取り記録に残し心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族様からこれまでの生活環境を聞き、今後の意向を確認した上で多職種からも意見を聞きカンファレンスとモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	入居前の面談や話から一人ひとりの好みや楽しかったこと、また家族等の考えを事前に把握し介護計画を作成している。6ヶ月に一回見直しを行っているがコロナ禍によりアンケートや電話で家族等の意見を聞き、大きな変化がない場合は目標を継続しながら様子を見ている。身体面より精神面に変化がある利用者が増えていることから短期目標に挙げ現状を見極めながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録を細かく記録し、職員間での情報の共有を行うようにしている。介護計画の実施状況も記入し、定期のモニタリングに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源を理解し、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。今まで暮らしてきた地域に出かけたり、馴染みの風景を見ていただいたりする機会を設けている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、ご家族様と協力し状況に応じて職員が同行し対応している。ご家族様から医療機関へ正確に情報を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医には家族が同行し都合が悪い場合は職員が行い、受診結果は家族・職員等で共有している。同法人の老人保健施設の看護師とは体調や状態の変化にも対応できる24時間体制の医療連携ができています。通院困難な方にはかかりつけ医からの往診もあり、安心して過ごせるよう支援している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は、併設事業所の看護職員に相談、記録を通じて申し送りを行い連携を図っている。また、入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した際は、管理者、看護師と共に病院との連携や情報交換を行っている。必要時は、病院関係者から情報提供を受けるようにし早期退院が出来るよう努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事前に終末期の意向確認を行い、状態変化に伴い早い段階からご家族様と職員が話し合いを行い事業所としてできる事を説明している。</p>	<p>本人・家族等には重度化した場合の対応について入居時に説明を行い同意を得ている。食事量低下などの状態変化が見られた場合は、家族に主治医から今後の対応や方針について説明があり同意をもらっている。看取りケアについては職員誰もがケアできるように指針等を作成し研修も行っており、これまでの経験も踏まえて利用者・家族等が不安なく過ごせるよう対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを作成し実施している。また緊急時の連絡網を作成し、事故発生時に備えて実践力を身につけるよう努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内にて防災訓練を実施している。避難訓練等に地域の消防団の方々にも参加していただき近隣住民の方々にも協力していただいている。	コロナ禍で感染防止から地域の自主防災組織や消防団との連携を得る訓練が出来ないが、協力体制は維持している。市のハザードマップでは事業所が浸水想定区域となっており、昨年の大雨の際浸水被害までは至らなかったが、建物内での垂直避難を実施したところ、簡易ベッドや食事等の課題が見つかり今後の教訓となっている。備蓄品等も備えて利用者が安心して暮らせるよう災害対策に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることをしっかり認識するようにし、一人ひとりの人格や自尊心を傷つけないよう言葉遣いや態度に気をつけて対応するようにしている。	会話と関わりを大事にしてこれまでの暮らしや習慣、思いや意向を汲み取りプライバシーを守り人格を尊重した支援を行っている。職員同志の言葉づかいなどは互いに注意し合い、利用者一人ひとりに合った声がけで信頼関係を築いている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを多くとるよう心がけ、会話の中から希望をくみ取ったり入居者様の意思を尊重し出来るだけ希望に添えるような支援を行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間は、ある程度決まっているが時間に囚われず一人ひとりのペースを大切にしながら過ごしていただけるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時など、好きな服と一緒に選び着ていただくように支援している。また、自分で決めることが困難な入居者様に対しては職員がその人らしい服装を選ぶよう心がけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍のため外部宅配を利用しているが、希望献立も取り入れている。食材で季節を感じてもらえるよう、盛り付けなども工夫するようにしている。また、配膳や下膳などを職員と一緒に行って頂いている。	コロナ禍でおかずは外部宅配となったが主食はホームで準備し、利用者も職員と共にできる範囲の調理・盛り付け・配膳・後片付けを行っている。散歩がてら出かけて畑のナス・枝豆・里芋など旬の食材や新鮮なものを収穫し食卓に載せ、また、季節の行事食や希望食も取り入れ利用者の喜びや楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量の把握に努めている。1日の目安より摂取量が少ない時は、好みの食品や捕食して頂く等の工夫を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ブラッシングの声かけを行い自力で不十分な方に対しては介助を行うようにしている。口腔内の状態観察に努め必要時はご家族様に報告と相談を行い歯科受診や歯科往診して頂き口腔衛生が保てるように支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて見守りや介助を行うように支援している。可能な限りトイレでの排泄が行えるよう職員間で常に話し合い清潔な状態が維持できるように支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を活用しパターン等を把握して、さりげない声掛けや誘導でトイレでの排泄を促している。服が汚れた場合には耳元で促し、居室で着替えるなど、プライバシーに配慮して本人が気持ち良く生活できるよう気配りしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分の摂取状況や下剤の服用状況を把握し職員間で情報の共有を行うように努めている。居室にこもりがちで運動不足にならないように個々に散歩に出かけたり体を動かすレクリエーションを行うよう支援している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日などは特に決めず、バイタルを確認し、安心してゆっくり自分のペースで入浴を楽しんでいただけるよう支援している。入浴剤など利用し楽しんでもらえるよう配慮している。	曜日等は定めず入浴時間のみを設定している。利用者一人ひとり気持ちよくゆったり入浴できるよう配慮し、壱番館・参番館にリフト浴を設置しており安全に入浴できるよう支援している。拒否等がある場合は家族等と相談し清潔の保持に努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った生活パターンを送れるよう支援している。時間に囚われず余暇を楽しんでいたり居室で自分の時間を過ごす等自宅で過ごされている状態に近くなるように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援を行うと共に、主治医との連携が図れるよう状態を記録に残し、必要時は受診の際に情報提供を行うよう努めている。服薬後の状態観察を行い職員間での情報共有を行うよう努めている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や好きなことなどの把握に努め生活に張り合いが持てるように支援している。趣味や得意なこととの継続と楽しみや気分転換が図れるよう支援している。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナウイルス感染症予防の観点からなかなか外出する機会が軽減しているが天気の良い日はドライブや散歩などを行うよう努めている。</p>	<p>コロナ禍のため今までのような外出はできなくなったが、ごみ捨て等を兼ねて職員と一緒に散歩に出かけ、また車椅子の方も全員が出かけられるよう工夫をしながら外気浴等をしている。屋外テラスに椅子やテーブルを置き、お茶会やレクリエーション等を行い気分転換を図りストレスの軽減にも努めている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要品の買い物は、預かり金の中から購入するようにしている。外出の機会が得られた場合は、一人ひとりの能力に応じて財布を持っていただき欲しいものを選び支払いもして頂けるよう支援している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様の要望に応じてご家族様への電話対応を行うよう努めている。手紙やハガキ・年賀状などは職員と一緒に作成出来るよう支援している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季を感じられるような壁飾りや装飾をご利用者様と一緒に作成し明るい空間作りを行うように努めている。照明や室温などにも配慮し柔らかい清潔感のある空間づくりを行っている。</p>	<p>温・湿度を設定して1時間に一回換気を行う等、日々快適に過ごせるよう配慮している。レクリエーション時に利用者と一緒に作成した花などを壁面に飾り、また和室から外の景色を眺め季節を感じられる居場所となっている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの決まった席だけでなく、ソファーや和室などで気の合う入居者様同士が、お茶会などを通してコミュニケーションを図ることが出来るよう支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に使い慣れた物や、自宅で使用していた物などをお持ち頂き、安心して生活していただけるよう配慮している。</p>	<p>事業所で設置しているベッド、チェスト、洗面所、押し入れ、エアコン等の他、今まで使用していたテレビや仏壇等を持参し、利用者・家族等と相談し動線にも注意した配置にしている。各居室入り口に個性のあるのれんや表札を掲げ、清掃は職員と一緒に掃除機やフロアモップで行い清潔感のある居心地の良い居室となっている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様が集うリビング付近や廊下には手すりがあり、安全面に配慮した造りとなっている。一人ひとりの状態に合わせてながら自立した生活が送れるように支援している。</p>	/	/